

町屋を活用した商店の空間利用に関する研究

-京都府錦市場商店街を対象として-

Research on the use of space in stores utilizing townhouses

- For Nishiki Market Shopping Street in Kyoto -

○近藤孝俊¹, 井本佐保里²

*Takatoshi Kondo¹, Saori Imoto²

Abstract: The purpose of this study is to clarify the use of space by merchants utilizing machiya (townhouses). It was found that the merchants who operate in machiya houses have changed and maintained them by using the upper floors, unused spaces, and storehouses as workspaces, etc., for the exclusive use of the merchants.

1. 研究の背景と目的

現在,日本の各地でシャッター商店街が見られ,商店の衰退や大型商業施設の建設による商店街の需要の低下等が要因として挙げられる.また,店舗の老朽化や所有者に貸す意思がない,二階に居住している等¹⁾からも空き店舗が埋まらず,シャッターとなっている.一方,京都府中京区に立地する設立から400年を経た錦市場商店街は,空き店舗のない商店街を維持している.既往研究では,錦市場商店街が衰退を経て,再生した際の課題²⁾や商いの方法³⁾に関する知見は得られているが,建物の維持と空間利用についての知見は得られていない.本研究では,錦市場商店街を対象に,町屋を活用した商店の空間利用について明らかにすることを目的とする.

2. 調査概要

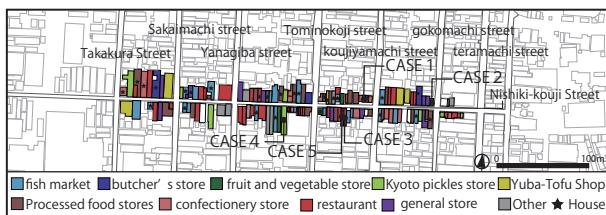


Fig1 Types and locations of stores in Nishiki Market shopping district

2-1 調査対象地

調査対象は,京都府中京区に位置する錦市場商店街を対象とする.錦市場商店街は,782年に魚の立売りとして始まり,1615年には錦市場として設立した²⁾.1927年以降になると,青果店や精肉業等を加え,市民の食生活を支える「京の台所」となった⁴⁾.2000年頃には,観光地化が進み⁵⁾,現在は町屋を活用した約130店舗が商いをしており.その中で居住している店舗は28軒と比較的少なく,店舗専用として利用していることが分かった.

2-2 調査方法

調査方法は,令和5年7月7日,8月6日-10日に,商店街

の代表者と業種の異なる5店舗に対し,商店街の変遷や商いについてヒアリング調査と実測調査を実施した.

3. 調査対象店舗の特徴と空間利用 [Fig1,2,3]

CASE	Type of industry /Year Opened	1910	1930	1935/1936	1970/1978	1988	2018	2020
1	Tea Shop 1978					In-store sales of tea Sales through e-commerce sites		
2	Vegetable store 1910		Over-the-counter sales of fruits and vegetables Wholesale to ryotei and ryokan.					
3	Restaurant 2008				Eating and drinking in the restaurant.	Sale of goods.		
4	Pickle store 1930			In-store sales of pickles		Sales to department stores		
5	Grocery store 1935			In-store sales of dried seaweed Wholesale of dried seaweed				

Fig2 Store Overview

3-1 各店舗空間の分類

- ①建物を所有する店舗 (CASE4) : 町屋で1930年から営業している.2000年頃までは上階に居住していたが,現在は作業場や休憩所として活用している.
- ②建物の一部を借りる店舗 (CASE1,2,3) : CASE1は,4店舗が入る建物の一部を借りて,1978年から営業している.CASE2は,所有者が3つに区画した建物の一部を借りて,1910年から営業している.CASE3は,所有者が町屋建築を改修した一部を借りて,2018年から営業している.
- ③建物1棟を借りる店舗 (CASE5) : 町屋一棟を借りて,1935年から営業している.

3-2 各店舗の商いの方法

- 各店舗は,店頭での小売だけでなく,製造したものを卸売,通販等で販売,しており,製造,梱包作業,販売の三つの工程を商いの方法に合わせて選択し営業している.
- ①製造,梱包作業,販売する店舗 (CASE1,4,5) : CASE1は,店舗が狭いため,店内に製造,作業空間を設けて店外で販売している.CASE4,5は町屋を活用しており,店の奥で製造し,中央の空間で梱包等の作業をして,店頭販売や卸売,通販で販売している.
- ②梱包作業,販売する店舗 (CASE2) : 建物の一部を借りて店頭販売と卸売をしており,梱包材料等を裏から持ち出し,店頭で作業しながら商いをしており.

1 : 日大理工・院 (前)・建築 2 : 日大理工・教員・建築

③製造,販売する店舗 (CASE3) : 店頭で調理場があり,奥で食事ができる商いをしている.

3-3 改修,改築工事の事例

①建物の部分的な改修 (CASE2,5) : CASE2 は,裏が半屋外の土間だったため,1988年頃にトタンで塞ぎ,荷物を置く空間とした.CASE5 は,作業場と蔵のある場所³⁾を一つの空間にして,大型の機械を導入した.

②建物全体の改修 (CASE3) : 町屋の所有者がリノベーションし,CASE3に建物の一部を貸している.

③建物全体の改築 (CASE4,5) : 老朽化に伴い,半分ずつ段階的に鉄骨造として作り替えること (CASE4)や,建物の梁を1990年頃に修理 (CASE5)していた.

4.まとめ

錦市場商店街では,建物の一部分や町屋を活用した商いが行われていた.特に,町屋で商いをする店舗

は,居住していた上階や,使用してない空間,蔵を作業場として活用する等,町屋を商店専用に変更し維持していることが分かった.時代や商いの変化によって,町屋の空間利用が変化したと考えられる.今後は,町屋の商店の機能の変化について調査していきたい.

5.参考文献

1) 東京経済 (2023.9.28 閲覧)

<https://toyokeizai.net/articles/-/139294?page=2>

2) 井村直恵 : 歴史的商業地区再生の課題,京都マネジメントレビュー,Vol11,pp33-51,2007-6

3) 京都工芸繊維大学 : 都市のメタボリズムを調査する京都の食,2015.5-7

4) 錦ブランドを活かした地域活性化の取組

<https://www.city.kyoto.lg.jp> (2023.8.22 閲覧)

5) 京都新聞,2001年8月3日発行 (2023.8.22 閲覧)

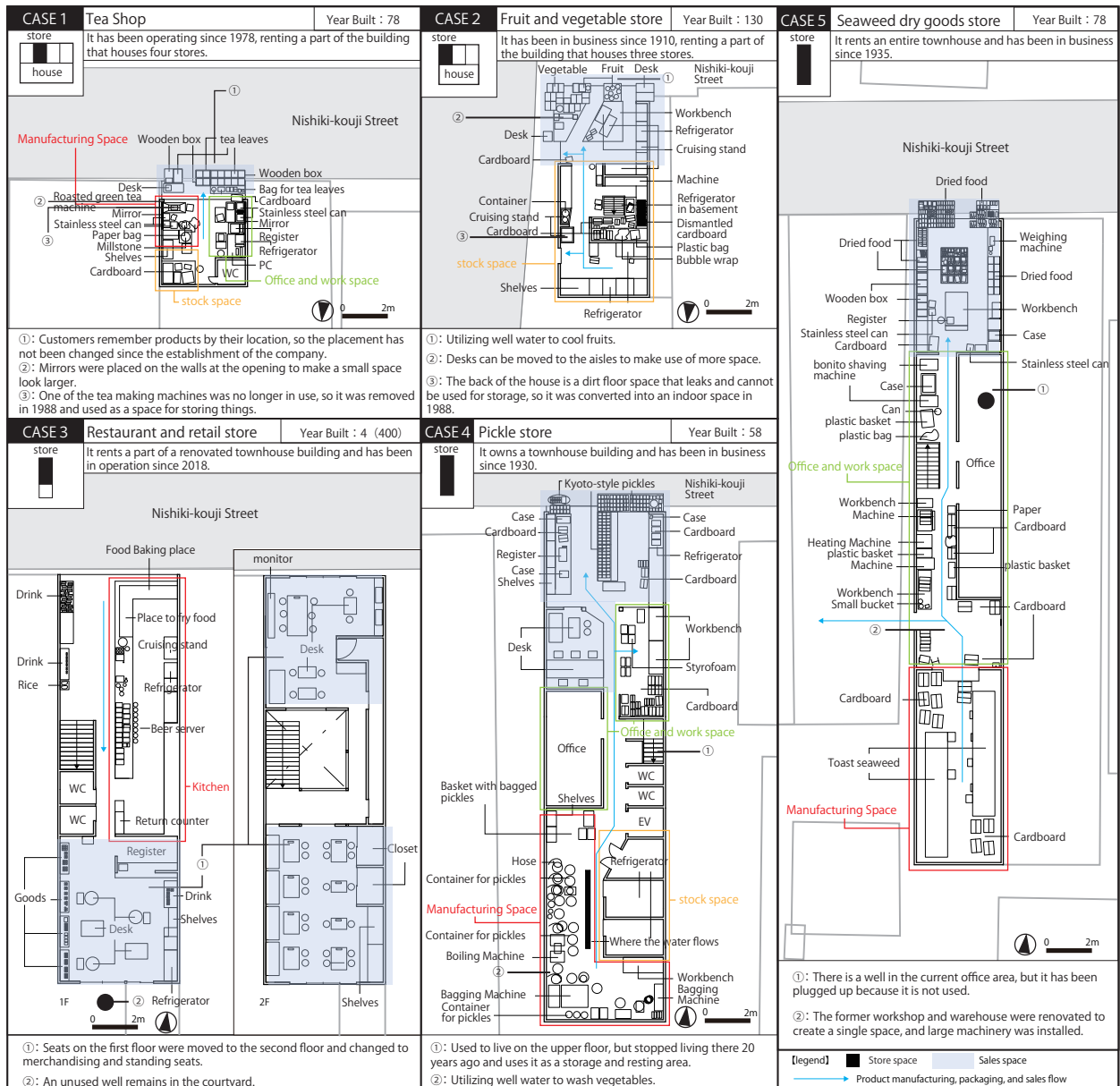


Fig3 Spatial configuration and usage of the store